

第 19 回 横浜市立病院経営評価委員会議事録	
日 時	令和 3 年 8 月 10 日 (火) 17 時 00 分～18 時 25 分
開催場所	Web 会議
出席者	<p>[委 員] 田中滋委員長、黒木淳委員、渋谷明隆委員、高田礼子委員、長野広敬委員、水野恭一委員、渡邊眞理委員</p> <p>[病院経営本部] 平原史樹病院事業管理者、修理淳病院経営副本部長、門林病院経営課長 他</p> <p>[市民病院] 小松弘一病院長、中澤明尋副病院長、伊奈川岳副病院長、仲里副病院長、庄司邦枝副病院長 (兼看護部長)、神内浩管理部長 他</p> <p>[脳卒中・神経脊椎センター] 齋藤知行病院長、前野豊副病院長、城倉健副病院長、吉楽初美副病院長 (兼看護部長)、本間明管理部長 他</p> <p>[みなと赤十字病院] 伊藤宏院長、小森博達副院長、渡辺孝之副院長、武居哲洋副院長、間瀬照美院長補佐 (兼看護部長)、三橋文武院長補佐 (兼事務部長) 他</p>
開催形態	公開 (傍聴者 0 人)
議 事	<p>(1) 「横浜市立病院中期経営プラン 2019-2022」令和 2 年度の振り返り等</p> <p>(2) その他</p>
決定事項	<p>・「横浜市立病院中期経営プラン 2019-2022」令和 2 年度の振り返り及び、横浜市立みなと赤十字病院の指定管理業務実施状況についての振り返りは、本日の意見を事務局で整理した上で、委員長に一任し最終確認を行い確定する。</p>
議 事	<p>開 会</p> <p>○石川係長</p> <p>定刻前ですが、皆さんおそろいのようなので、第 19 回横浜市立病院経営評価委員会を開催いたします。本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。司会進行を務めます医療局病院経営本部病院経営課の石川です。よろしくお願いたします。</p> <p>初めに、本委員会につきましては、横浜市の保有する情報の公開に関する条例第 31 条に基づき、横浜市役所庁舎内に傍聴席を設け、WEB 会議の模様を公開させていただいておりますので、ご了承ください。</p> <p>それでは、会議に先立ちまして、横浜市病院事業管理者で医療局病院経営本部長を兼ねます平原より御挨拶させていただきます。</p> <p>○平原病院経営本部長</p> <p>病院経営本部長の平原でございます。着座にて御挨拶させていただきます。委員の皆様方、本当に今日は暑い中でございますし、またコロナでいろいろと騒がしくなっているときにお集まりいただきまして誠にありがとうございます。本日は、「横浜市立病院中期経営プラン 2019-2022」の令和 2 年度の振り返り等についてご説明したく存じます。各</p>

委員の先生方から前もって貴重なご意見を伺っておりまして、これはかなり詳細な形でまとめさせていただいております。本日は頂いたご意見を中心に進めさせていただき、大変重要なものでございますので、最終的な報告書として反映させていただきたく存じます。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対しまして、3つの市立病院いずれも全力で取り組んでまいりました。現在、市内・県内の新型コロナ感染症の対応で3市立病院も大変な状況に今なっております。この3連休中もその折々で院長ほか病院幹部が先頭に立って陣頭指揮をして四苦八苦しているところでございます。昨日は1000名を超え、市内の感染者数は1月の第3波のときに比べてほぼ2倍を超えている状況でございます。今の時間帯は特に患者さんの救急受入れの搬送が立て込み、急なトップの判断が必要な場合が生じることもございますので、院長初め幹部が中座することもあり得ることと思います。その折には、病院経営本部から責任を持って回答させていただきますので、あらかじめご了承のほど、お願いしたく存じます。

それでは、よろしくどうぞお願いいたします。以上でございます。

○石川係長

次に、本年6月に委員の変更がございましたので、ご紹介させていただきます。委員名簿の上から5人目に記載がございます、新しく神奈川県看護協会の会長に就任されました長野広敬委員です。

続きまして、本年4月以降新たに着任しました幹部職員を紹介させていただきます。画面共有しております名簿をご覧ください。

改めまして、医療局病院経営本部病院経営部長、白木健介。

市民病院病院長、小松弘一。

市民病院副病院長、伊奈川岳。

市民病院副病院長、仲里朝周。

新しい幹部職員は以上でございます。

なお、病院経営部長の白木ですが、本日は所用により欠席させていただいております。

それでは、今回の議題に入りたいと思いますので、司会進行を田中委員長に引き継ぎたいと思います。田中委員長、よろしく申し上げます。

○田中委員長

かしこまりました。では、委員の先生方、初めての方もいらっしゃいますし、以前からの方もいらっしゃいますが、今日はよろしく申し上げます。先ほど事務局から説明があったように、病院側は大変な時期なので、できるだけ委員会で時間を取り過ぎないようにうまく効率的に進めてまいりましょう。

議 事

- (1)「横浜市立病院中期経営プラン2019-2022」令和2年度の振り返り等

○田中委員長

早速議事に入ります。議題は、先ほど紹介がありましたように、「横浜市立病院中期経営プラン 2019-2022」の令和 2 年度の振り返りであります。項目ごとに説明を伺い、順に議論していくことといたします。まずは、市立 3 病院における新型コロナウイルス感染症対応について、事務局から説明をお願いします。

○門林病院経営課長

それでは、説明させていただきます。病院経営課長の門林です。事前にお送りさせていただいております振り返りと点検・評価の資料、こちらの 2 ページをお開きください。こちらは大項目 1 としまして、市立 3 病院における新型コロナウイルス感染症対応についてまとめさせていただいております。例年になく項目となっております、特出しした項目としております。

一番上の今表示しております太枠のところ、こちらは市立 3 病院の取組の主だったものをまとめたものとなっております。まず 1 つ目の白丸ですけれども、市立 3 病院につきましては、新型コロナウイルス感染症への対応に中心的な役割をこれまで果たしてきております。令和 2 年 5 月には、市民病院が新しい病院に移った後、これまで使っていました旧市民病院の施設を横浜市の宿泊療養施設として開所いたしまして、今年 3 月まで 1 年間にわたって約 800 人程度の軽症・無症状の患者さんを受け入れております。2 つ目の白丸の一番最後ですけれども、市立 3 病院で、疑い患者さんも含めまして、これまでに合計で 3000 人以上の患者さんを受け入れております。3 つ目の白丸ですけれども、2 行目の後段、新型コロナウイルス感染症への対応と、救急医療などの政策的医療や高度急性期医療の両立に努め、医療提供体制の維持に努めてきております。また、その下に表がありますけれども、こちらは市立 3 病院の疑い患者さんを含めた受入れの状況を月ごとにまとめたものとなっております。

その下、(1) から市民病院の取組となっております。ア、新病院の開院等による感染症患者の受入れ体制の強化は、2 ページの下段から 3 ページ、そして 4 ページの上段に至る部分まで、市民病院のコロナ対策の取組を記載しております。また、4 ページ目の(2) 脳卒中・神経脊椎センターの取組としましては、ア、新型コロナウイルス感染症患者の受入れから、5 ページ、そして 6 ページの一番上の段まで脳卒中・神経脊椎センターの取組を記載しております。6 ページのその下(3) みなと赤十字病院の取組として、ア、新型コロナウイルス感染症患者の積極的な受入れから 7 ページに至るまで、みなと赤十字病院の取組についてまとめたものとなっております。

こういった各病院の取組に対して、委員の皆様から多数ご意見を頂いております。8 ページをご覧ください。8 ページから 10 ページにかけて多数のご意見を頂いておりますので、その中から幾つかご紹介させていただきます。

まず、8 ページの一番上の黒丸のところでは、中等症以上の陽性患者の積極的な受入れ、あるいは専門病床の確保などを行っていただいで、困難な 1 年間の中で、いずれも市民の負託に着実に応える取組で大いに称賛するとのご意見を頂いております。また、黒丸で 7 つ目、真ん中辺りですけれども、新型コロナウイルス感染症が第 4 波、第 5 波

と続く中、患者の診療に当たる医療従事者の負担が長期化していると。また、職員への心身両面の支援の継続は重要だというご意見も頂いております。また、その下ですが、市民病院に関しては感染症指定病院として合計で2302人の患者を受け入れた実績というのは高く評価するというご意見も頂いております。

続いて9ページに移ります。9ページの黒丸の2つ目ですけれども、脳卒中・神経脊椎センターは専門病院でありながら、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れたことは評価できる。病床が逼迫している状況の中で、行政が感染症や呼吸器専門医を集め、中等症や重症患者を受け入れる体制を整えることも大事ではなかったかというご意見も頂いております。また、その下、みなと赤十字病院に関しては、断らない救急を継続しながら、中等症や重症の新型コロナウイルス感染症患者を受け入れたことは評価できるというご意見。また、その下では、市立2病院として、市民病院と脳卒中・神経脊椎センターでは、新型コロナウイルス感染症の積極的な患者受入れのために連携体制が取れたことは評価できるというご意見を頂いております。また、下から2つ目のところでは、新型コロナウイルス感染症対策に取り組みながらも、各病院の本来の機能の維持について努力されたと思う。また、その下では、非常に多くの患者を受け入れた実績が読み取れ、誇らしく感じたなどの多数のご意見を頂いております。

10ページまでご意見として載せさせていただいておりますが、説明は割愛させていただきます。説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

○田中委員長

ありがとうございました。ただいまの説明で我々の意見も紹介されていきました。どの委員も3病院とも非常なご努力と活躍をなさっていることに敬意を表するというトーンが出ていましたね。皆さん同感だと思います。

それでは、ここから意見交換に移ります。既に紹介された意見、あるいは提出されている意見でも構いません。皆様方からの意見や質問があればお願いいたします。

○渋谷委員

では、皮切りに私から質問させていただきます。今、田中先生も申されていきましたように、市立3病院が非常に頑張っておられる様子は非常に理解できておりますし、称賛に値すると思っております。一方で、今第5波が始まりまして、北里でも重症系の病床がほぼ満床になりつつあります。特に市立市民病院においては、感染症の中心病院ではありますけれども、重症患者さんを診る上で、市立大学病院、横浜市大との役割分担みたいなことはうまくできているのでしょうか。そこをちょっとお聞かせ願えればと思います。よろしくお願いいたします。

○田中委員長

お答えください。

○修理病院経営副本部長

医療局長の修理です。どうもありがとうございます。横浜市の場合は市立3病院にも頑張ってくださいましたけれども、そのほか市大の2病院、そして地域中核病院が6病院ございますので、その間の連携が多分、他都市に比べるとかなりうまくいっていると

というのがあります。例えば市立大学病院については、E C M Oが必要な患者さんについては積極的に他都市からも引き受けるとか、いわゆる重症の中での役割分担というものもある程度病院間での話合い、あるいは横浜市の場合はY-C E R Tという調整機能を持っておりますので、そういったものも利用しながら病院間の中でうまくいくような形で今のところ何とかやっていると。ただ、先生おっしゃるように非常に数が増えてきているので、本当に毎日綱渡りというような状態であることは事実です。これからも連携を大事にしながら全力でやっていきたいと思っております。ありがとうございました。

○渋谷委員

ありがとうございます。もう一つお聞かせ願いたいのですが、旧市民病院の前の建物は軽症者の受入れに使われたということなのですが、今は使っていないということなのでしょうか。その場合、今後また開設する予定みたいなものは計画としてお持ちでしょうか。

○門林病院経営課長

病院経営課長の門林です。宿泊療養施設は旧市民病院を、市民病院が移った後、昨年5月の頭のゴールデンウィークから今年の3月まで使ってきました。ただ、やはり建物自体が古いということで、施設面の給排水含めていろいろなところに不具合を抱えておりまして、患者さんを受け入れていく療養施設の環境ということを考えて場合に、一旦休止して点検しようということになりまして3月で閉じております。その後、点検した結果、やはり抜本的に建物の設備にかなりお金を投じないといけないということで、今年の7月ぐらいに施設自体は宿泊療養施設としては使わないということで、保健所のほうで宿泊療養施設は廃止ということで方針は決まっております、現在も建物は閉じた状態となっております。

○渋谷委員

ありがとうございました。

○田中委員長

ほかにいかがでしょうか。

○長野委員

私も3月までコロナの患者さん受入れ病院にいましたので、よく伝わってくる状況です。お聞きしたいのは、特に看護の観点から、コロナの患者さんを受け入れるに当たって、例えば看護師がほぼ全面的にいわゆるレッドゾーンであるとかに入り、患者さんの診療及びその看護に当たるわけですが、看護師の相当な業務の負担がいつも問題にされます。その中で特に環境の整備ですね、例えば部屋であるとか、患者さんが使った物品、トイレであるとか、いろいろなところの環境の消毒関係、清掃関係について、看護以外のそういう専門業者に頼まれてやられていたのか。あと、リハビリテーションの関連ですけれども、当然、他職種と連携して患者さんを見ていくわけなのですが、ある病院では、リハビリテーションについては看護師に依頼して看護師がベッドサイドでリハビリをやるというような状況も聞いたことがございまして、そういったことは今現在どうなのかというのを教えていただきたいと思っております。

○田中委員長

それでは、それぞれの病院からお答えいただきましょうか。市民病院、いかがでしょう。

○庄司市民病院副院長

看護部長の庄司です。まず1点目の環境清掃に関してですけれども、これまで感染管理室とどのような形が一番感染を防止していく上で望ましいかという話をずっと続けてきました。これは、お掃除ではなくて環境の消毒ということでは、やはり委託には移譲しないで看護師たちがやっていったほうがよいという判断でずっとここまで頑張ってきてきました。病棟の看護師たちの負担も大きいので、いろいろなところから応援する形で看護部門の管理者も清掃・消毒業務に携わってきました。今回第5波を迎えるに当たり、いよいよ人手も大変になってきて、きちんと業者の監視・指導を行っていくという約束の下にやっとなんか入れていただくということが今回決まってきました、これから感染症病棟の消毒業務を委託をお願いしていくことに決まったところでございます。

あと、リハビリに関してですけれども、当初、感染病棟は、PTさんに入っていたけども、今現在はPTさんも入っていただけるようになって、リハビリを患者さんに提供できるようになりました。以上です。

○田中委員長

ありがとうございます。脳卒中・神経脊椎センター、いかがでしょうか。

○吉楽脳卒中・神経脊椎センター副院長

看護部長の吉楽です。当院では、環境清掃等につきましては業者さんにやっていただけなかったのが看護師及び補助者が行っています。

リハビリに関してはコロナ病棟に入院中にはできませんので、看護師が日常生活動作を援助する中で、リハビリの視点をもって対応しています。継続したリハビリが必要な方については、隔離解除可能となった時点で速やかに一般病棟等に転棟し実施することとしています。以上です。

○田中委員長

ありがとうございます。みなと赤十字はいかがでしたでしょうか。

○間瀬みなと赤十字病院長補佐

看護部長の間瀬です。1点目の清掃に関しましては、当院では初めのころから事務部にも協力をいただきまして一緒にやっていただきました。今現在は業者に依頼しております。

2点目のリハビリに関しては、何度も話を重ねてきておりますが、リハビリの皆さんは組織横断的に患者さんと関わっておりますので、感染防止の観点で現在もナースが行っているところです。以上です。

○田中委員長

長野委員、よろしいですね。

○長野委員

ありがとうございます。引き続き看護師業務への支援をお願いしたいなと思っております。こういった要望は結構いろいろな施設から看護協会のほうにも要望として上がってくるものですからお聞きしました。ありがとうございました。

○田中委員長

ほかにかがですか。では、私から1つ、3つの病院に伺います。今年の4月に新しく入職した看護師さんをはじめコメディカルの方々、いかがでしょう。埼玉県立でも今年3月に卒業した人たちの最終年度の実習の時間が昨年度1年間はどうしても少なかったんですね。そして4月いきなり戦場のような病棟に入って、若い人たちが何とかついていけているのでしょうか。気になっているので教えてください。市民病院、いかがでしょうか。

○庄司市民病院副病院長

それでは、看護の庄司のほうからお答えいたします。新人ナースは、当院はコロナになる以前からパートナーシップで先輩とペアを組んで業務に当たっていくというOJTを重視しております、今現在もその形でやっております。ですので、実習時間、技術が少ないという看護師も、先輩と一緒に行動していくということでは、今のところ業務にもついていっているという状況で行っております。

○田中委員長

心強いですね。ありがとうございます。脳卒中・神経脊椎センター、お願いします。

○吉楽脳卒中・神経脊椎センター副病院長

当院では、今年度の新採用看護師については、実習時間が少なかったこともあり、入職時のオリエンテーションを例年より2日間増やし、医療現場の雰囲気を知ってもらうためにシャドーイングを実施しました。また、配属後も例年よりも余裕を持ったスケジュールで進めています。まだ夜勤の独り立ちが出来ていない部署もありますが、適応できない職員が例年に比べて多いということはありません。

○田中委員長

ありがとうございます。最後にみなと赤十字、お願いいたします。

○間瀬みなと赤十字病院長補佐

看護部長の間瀬です。例年に比べまして、やはり大きな違いがあるなというふうに感じております。俗にいうリアリティーショックが非常に大きくて、5名ほどメンタルサポートの支援が必要でした。2日ほど休暇を取って元気に帰ってきた者もおりましたけれども、1名は6月に退職いたしました。今も継続してメンタルサポートケアの支援が必要だなと感じております。理由としては、やはり実習に行く時間が少なかったということで、入職してからの現場がなかなか受け入れられないといいますが、できないことが受け入れられないというのが主な原因になっております。

○田中委員長

ありがとうございます。昨年度の振り返りというより今の話ですけども、それぞれいろいろな努力をなさっている様子がよく分かりました。昨年度の取組でもメンタルサポートはきちんとしているとの報告がありました。

ほかにかがですか。ないようでしたら次に移ります。また戻っていただいても構いません。次に、市民病院の振り返りのところに移ります。事務局から説明をお願いします。

○門林病院経営課長

それでは、続きまして資料 12 ページをご覧ください。ここからは病院ごとの振り返りとなっております。

まず、(1)として市民病院の取組からです。1つ目の柱の「医療機能の充実」では、1つ目の白丸にありますように、総合的ながん医療の充実においては、新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えなどもあって患者数が減少し、多くの項目で目標未達成となっております。そのうち、がんゲノム医療の推進においては、がんゲノム外来を実施するなどの体制強化に取り組み、遺伝子パネル検査の件数は増加しております。またそれ以降、救急車の搬送受入件数など取組についてまとめております。一番最後の白丸のところでは、国際化対応ということで、令和3年度の外国人患者受入医療機関認証制度、通称 J M I P ですが、こちらの受審に向けての取組を行っております。院内に専門の部署を立ち上げて専従の職員の確保にも取り組んでおります。13 ページにつきましては、主な目標と実績をまとめた表となっております。

14 ページに移ります。こちらは、この項目に関しての各委員からのご意見です。幾つかご紹介いたします。黒丸の2つ目ですが、高齢化が進展する中で、認知症ケア加算算定件数が大きく伸びた実績も誇っているのではないかとのご意見。また、上から6つ目の黒丸ですが、新病院が開院し、すばらしい施設と設備で驚いた。感染症対策は外来も入院も万全であるということなど、あとは周産期センターの医療機能の強化、市民にとって大きな安心材料となっているといったご意見。また、その下、2行目の後段ですが、今後重要なのはアフターコロナに向けた積極的で市民病院の強みを生かした戦略的政策である。早急な取組を期待しているというご意見。また、そこから2つ下ですが、国際化の対応も準備を着実に進めており、今後に期待するなどのご意見を頂いております。

続いて16 ページに移ります。こちらは、2つ目の柱の「地域医療全体への貢献」になります。1つ目の白丸では、紹介率や逆紹介率について、受診控え等により非常に厳しい状況にはありました。一方で、地域医療機関の訪問や、移転後の新病院の小規模内覧会の実施など、各医療機関に対してのPRなどを工夫したという取組を行っております。また、2つ下の後段の部分です。地域医療の充実に貢献するため、WEB 会議システムや動画共有サービスを活用した地域医療機関向け研修を新たに実施するなど、新しい生活様式に即した取組を進めたといったようなことも紹介されています。下は主な目標と実績となっております。

続いて17 ページです。こちらの項目に対する委員の意見を一部ご紹介します。上から2つ目では、新型コロナウイルス感染症の影響下で、地域医療機関と連携を強化する上でオンラインカンファレンスの導入や WEB システムを活用した研修を積極的に進めていただきたいというご意見。また、そこから3つ下の2行目、施設完結型から地域完結型

を目指している地域包括ケアシステムにとって、地域へつなぐ支援は最も重要視されなければならないのでさらに努力してほしいというご意見。また、2つ下ですけれども、ICTの活用についてはC評価となっているが、今後ぜひ進めていただきたいなどのご意見を頂いております。

続いて18ページ、最後の柱になります。「経営力の強化」に関する取組です。1つ目の白丸では、新型コロナウイルス感染症等の影響により新入院患者数は伸びなかったものの、医業収益は前年度を約10億円上回り、目標を達成しております。また、手術件数については、上半期は前年度を下回ったものの、新型コロナウイルス感染症対応と高度急性期医療の両立によって下半期は前年度を上回る手術件数となっています。また、2つ目の白丸ですが、患者満足度については、入院・外来ともに前年度より向上し、目標を達成しています。また、その下の白丸ですが、職員満足度については、勤務条件や処遇条件、勤務意欲等に改善が見られました。下は主な目標と実績をまとめた表となっております。

続いて19ページに委員の意見を載せております。一部紹介いたします。1つ目の黒丸ですが、コロナ禍で新規入院患者数・外来患者数とも減少したにもかかわらず、医業収益増を達成できたことは立派であるというご意見。2つ下ですが、特に急性期病院では医業収支が悪化した一方、臨時補助金の効果により経常収支悪化が食い止められている実態が見られる。2021年度にも昨年度と同様に補助金が支給されるかどうかはまだ不明だということと、減った場合のシナリオの準備も欠かせないというご意見を頂いております。そこから4つ下ですが、患者満足度の向上は、療養環境の向上や、駐車場や会計の待ち時間減少への努力など、職員の取組の成果だと思われるというご意見。2つ下では、看護師の正規雇用離職率も全国平均離職率を大幅に下回り、看護部の努力の成果が見えたというご意見。また、その下では経常収支についてですが、1億8500万円の赤字ということで、目標よりもかなり改善している点に非常に大きな意義があると思うというご意見を頂いております。

説明がちょっと長くなりましたが以上でございます。よろしく願いいたします。

○田中委員長

説明ありがとうございました。では、委員の方々からのご質問あるいはご意見を伺います。既に提出いただいた意見をここでもう一回強調してくださっても構いません。どうぞ、どなたからでも。

○渋谷委員

渋谷ですけどよろしいでしょうか。去年の急性期病院の決算を幾つかの病院で見させていただいているのですが、例えば北里でもそうですし、あるいは私がちょっと関係している町田市民病院なんかもそうなのですが、大体医業収益がマイナスに大きく落ち込んで、補助金等々があっても経常収支ではぎりぎり黒字になる割合が、言い方はおかしいかもしれませんが、コロナバブルで黒字が続く病院が結構見られております。市民病院は、経常収支は残念ながらマイナスになっているのですが、予定よりはずっといいのだらうと思いますけれども、やはりこれは市民病院をつくったことによる減価償却がまだ

結構重くあって経常収支がマイナスになってしまっているのだらうと思いますが、この減価償却によるマイナスはまだ数年続くような計算に予定ではなるのでしょうか。

○小松市民病院長

病院長の小松です。渋谷先生が今おっしゃったとおりで、コロナの前ですけれども、計画では2年目から減価償却を踏まえても黒字化ということを考えておりました。コロナの補助金による影響が大きいのは事実なのですが、一般病床だけですと減った中でも稼働率100%以上ということで、いわゆる急性期病院の機能維持・向上に努めてきた結果も大きいと思っております。とりあえずそういったところでよろしいでしょうか。

○渋谷委員

ありがとうございます。多分、新しい医療機器を幾つか購入されて、医療機器の減価償却は7年でしたかね、そのぐらい少し厳しい経営状況が続くかなと今考えておられるのではないかと思います。質問させていただきました。

○田中委員長

とても立派な数値ですね。どうぞ、経営の観点からも、働く人の気持ちからでも、あるいは患者の視点からでも結構ですが、いかがでしょう。渡邊委員、お願いします。

○渡邊委員

よろしく申し上げます。コロナ対策に関しては本当に頭が下がる思いで、とても努力なさっていると思います、資料も拝見させていただきました。質問は2つあるのですが、書かせていただいた意見で、1つは、今回のコロナ禍の経験を生かして、例えばWEBカンファレンスですとか、様々なWEBを利用した、外部者が入らないような状態でいろいろな情報共有ができるかと思っています。そこで、セキュリティーという点で、あるいは個人情報という点でどんな努力をされていらっしゃるかというのが1点です。

もう一点は、看護師の離職率が本当に低くて大変努力されていらっしゃるというのが伝わるのですが、そのことに対して、先ほど新人看護師のことについてご説明いただいた、ナーシングパートナーシップを導入していると中堅看護師の負担というのがまた逆に出てくるかなと思うのです。そのことに関してはどんな努力をなさっているのかお伺いしたいと思います。お願いいたします。

○田中委員長

お願いします。

○小松市民病院長

1つ目の質問を私から答えさせていただきます。確かにWEBを使ったカンファレンスをやるようになっていまして、そのセキュリティーという点では、一応Zoom等ではID・パスワードをお渡しして、それを入れないと参加できないというふうになっておりますので、そういったことでセキュリティーは保てるかなと考えております。答えになりましたでしょうか。

それから、今看護部長からお話ししますけれども、昨年度は例年以上に看護師の離職率が低かったんですね。そういった意味ではもともとプロフェッショナリズムが高いかなと思うのですが、それ以上のことは看護部長から加えて回答していただければと思い

ます。

○庄司市民病院副病院長

それでは、看護師の離職についてのご質問です。全国平均 11%を超えていますけれども、当院はここ 2～3 年、5%から 6%で、昨年に限りましては 6%ぐらいで推移しております。そして、コロナに対する負担感に関しましては、これまでも意向調査など取りまして、コロナの感染病棟がとても負担だという場合は一般病棟で、一般病棟で ICU、CCU が負担だといえどどこに異動したいのかというような意向を大事にこれまでも職員の配置などを行ってきておりました。その影響かどうか、希望どおり全てとはいかなくとも、なるべく早めの対処をするということで離職も減ってきているのかなというふうに捉えております。

あと、パートナーシップの先輩の負担ということですが、これまでも 1 年生に限らずお互いを慮って補完し合っていくということでは、先輩だけがいつも補完ではなく、補完される側にもなったりしますので、そういうお互いさまの気持ちを定着させていきたいと考えておりました、そこも退職の数字につながっているのかなというふうに捉えております。ただ、いろいろなストレスに関しましては、心のケアサポートチーム、精神科の医師や産業医、また、リエゾンナースなどのサポートもありまして、病院全体でみんな看護師を守ってもらっているというようにも感じております。以上です。

○小松市民病院長

あとすみません、最初の質問に対する答えを管理部長から補足させていただきます。

○神内市民病院管理部長

管理部長の神内と申します。WEB カンファレンスにおける個人情報の保護という点について補足させていただきますと、現在、地域の訪問看護師さんやケアマネジャーさんと WEB を使った退院カンファレンスが始まっております。そこでは、患者さんの個人情報は画面上ではやり取りをしないようにして、患者さんの支援に必要な情報のやり取りをするようにしております。患者さんの状態も動画というかビデオでお伝えすることで、患者さんの状態が病院に来られなくてもより伝わるといのがメリットとして考えております。

○渡邊委員

ありがとうございます。

○田中委員長

黒木委員、お願いします。

○黒木委員

横浜市立大学の黒木です。よろしくお願いたします。私から 2 つございまして、1 つは ICT の活用の件なのですが、目標がちよっと分かりにくいところもあるのかなと思っていまして、電カルと内部接続にということでご回答を頂いているのですが、目標を立てられるときに、研修とかセキュリティーとか何か今いろいろ ICT は注目されていますので、もうちょっとブレークダウンして目標とやられたことを整理されたらどうかなというのを感想として思った次第でございます。これが 1 点目です。

2点目は、外来と入院の満足度を非常に取られているということで、これを掲示板等でも開示されているということですが、特に重要だと思うのは、非常に高かった診療科や頑張られているところがある意味でエンカレッジされるといいなと思っていました、高かったところにしっかり、患者さんからすごく評価されていましたよというようなフィードバックを積極的に病院として医療従事者に発信されるといいのではないかと思います、質問させていただきました。以上2点です。

○田中委員長

感想1件と質問1件ですね。

○藤井市民病院P S C担当課長

患者サポートセンターの藤井です。今ご質問いただきましたICTの活用に関する目標ですが、現在は一緒に協力してやっていただける医療機関ということで、9医療機関ですとか、そういった形で目標を定めています。ただ、委員が今おっしゃったとおり、実際に目標としますのはこれ以外にそれぞれの医療機関でどれぐらいの症例、どれぐらいの対象の患者さんを対象としてデータのやり取りができるかということを目指し、別途目標を立てて作業を進めているというような状況です。電子カルテは、今年度実績はなかったのですが、電子カルテの電子的な接続は2年度末にできましたので、これから件数を入れていきたいと思っています。実際、地域の先生方と連携するのに、こういったコロナ禍ということもありまして、細かい話を打合せすることがかなり厳しい状況もありますが、またタイミングを見て件数を上げていきたいというふうに考えています。以上です。

○小松市民病院長

2つ目の質問にお答えさせていただきます。職員満足度ですが、それについては幹部会、あるいは経営責任者会議等で上昇したことは報告をして、各診療科、各部門の職員には、各診療科長、部門長から下げて報告していただくということで周知しております。また、昨年度は行っておりませんでしたけれども、以前はこういった職員満足度の報告会ですね、分析していただいたものを専門家に依頼して、報告してフィードバックということをやっておりました。また機会があればそういう機会をつくりたいと考えております。以上でございます。

○黒木委員

ありがとうございます。

○田中委員長

ほかにいかがですか。高田委員、お願いします。

○高田委員

高田でございます。先ほどの個人情報保護のところ念のため確認させていただいたのですが、システムに関してのお話はあったのですが、職員に対する個人情報保護に関する研修について、特に新人職員の方とかもいらっしゃいますので、どのように徹底されているのかというところを確認させていただきます。

あと、病院が移転しましたので、医療安全に関して、特に重点的に取組みが必要なこ

とがこの1年間で発生してきたかということについても、もし分かれば教えていただければと思います。以上です。

○小松市民病院長

以前、安全管理研修で倫理等でもそういった個人情報に、テーマを決めてやっている時期がありましたが、昨年はそういったテーマはなかったということでございます。また、1年ちょっとたちますけれども、こういった個人情報の漏えい等でのヒヤリハット、インシデントは起こっていないので、そういった意味では職員は十分心得ているのではないかと感じております。ご指摘がありましたので、またそういった研修も抜けていたことは今反省しているところで、そういった機会をつくっていきたくと考えております。

○高田委員

繰り返し必要になると思いますので、よろしく願いいたします。

○田中委員長

よろしいですか。こちらもまた後で思いついたことがあれば戻っていただいても結構です。

次に、脳卒中・神経脊椎センターに移ります。センターの振り返りについて事務局から説明をお願いします。

○門林病院経営課長

それでは、資料20ページをご覧ください。ここからは脳卒中・神経脊椎センターの取組となります。

1つ目の柱ですが、「医療機能の充実」についてご説明させていただきます。1つ目の白丸ですけれども、新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、横浜市全体の救急搬送者の数については、前年度と比較しまして10.2ポイント減少しておりますけれども、脳卒中につきましては30年度と同程度の1763件ということで、前年度比7.5ポイントの減となっております。また、2つ下の白丸ですが、脊椎脊髄疾患につきましては、専門外来として側弯脊柱変形外来を設置して、地域の医療機関等に診療の専門性をPRすることで手術件数は430件となり、目標を大幅に上回っているなどの取組を紹介しております。21ページについては主な目標と実績を載せております。

22ページに移ります。ここからは委員のご意見となっております。幾つかご紹介いたします。上から2つ目の黒丸ですが、新規の臨床研究・治験件数が大きく減った点は、若い医師の獲得の観点からも気になるというご意見。また、その下では、新型コロナウイルス感染症の影響により救急搬送者数が減少している中で、救急受入れ患者の増加に向けて救急隊との連携を継続して強化しているということがあるが、今後も継続してほしいというご意見。また、そこから2つ下の最後では、側弯脊柱変形外来をPRすることで手術件数が430件と増加した点は評価されるというご意見。また、その下では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、全体的に患者数の減少が見られる中、救急車搬送受入件数などにおけるアウトカムの評価、もの忘れ外来受診者数などが目標と同程度または上回る結果となった点は高く評価したいというご意見。また、下から2つ目では、恒常的な医療機能の充実に向けて、例えば近隣病院と医療機能で分担・連携していくな

ど、さらなる検討が必要であるというようなご意見を頂いております。

続いて24ページに移ります。24ページ、2つ目の柱ですが、「地域医療全体への貢献」では、1つ目の白丸で、新型コロナウイルス感染症の影響により、他医療機関からの患者受入れに当たっては、院内の感染予防策を徹底して行ったこと、また、その2つ下の後段の部分では、地域医療機関との勉強会については、WEB型の症例検討会の開催に変更する等の工夫を行ったことを紹介しています。下は主な目標と実績を載せております。

25ページからは委員の意見のご紹介となります。1つ目の黒丸では、新型コロナウイルス感染症下において、地域包括ケア病棟の稼働率向上の取組により、サブアキュート、ポストアキュート入院件数が目標を上回っていることは評価できる。また、地域医療機関とWEBでの症例検討会を開催する等の工夫を行っており、今後も積極的に地域医療機関との連携強化を進めていくことを期待するという意見を頂いております。また、その下では、ホームページの充実や地域の診療所等への訪問などにより、サブアキュート入院件数、ポストアキュート入院件数が目標を上回った点は評価するなどのご意見を頂いております。

続いて26ページになります。最後の柱ですが、「経営力の強化」に関する項目として、1つ目の白丸では、公立病院として新型コロナウイルス感染症患者の受入れに対応した結果、新入院患者数及び病床利用率は前年度実績を下回りましたが、医業収益は昨年度と比較して約2億円の増加となっていること、また、2つ下ですけれども、医業収益の増加及び新型コロナウイルス感染症患者の受入れに伴う補助金等によりまして、経常収支は約1.8億円と、平成27年度以来5年ぶりの黒字となったということを紹介しております。下は主な目標と実績の表となっております。

27ページからが委員の意見となっております。2つ目の黒丸では、経常収支が5年ぶりの黒字、おめでとうございます。共に喜びましょうというご意見を頂いております。また、そこから3つ下の黒丸では、新型コロナウイルス感染症対策で制限がある中、患者満足度の目標値を達成できたことは評価できるというご意見。また、2つ下では、新型コロナウイルス感染症患者の受入れにより、医業収益は2億円の増加となった。また、補助金等により経常収支は1.8億円となり、5年ぶりの黒字化を達成した点は評価できるということ。また、コロナ禍の補助金収入などによる特別な状況であり、引き続き本業における経営力の強化に努められたいというご意見を頂いております。一番最後の黒丸では、今後の経営の継続性を考えた場合には、医療機能について近隣の高度急性期病院と積極的に医療機能の分担・強化で連携していくなど、検討していくことが必要ではないかといったようなご意見を頂いております。

説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

○田中委員長

説明ありがとうございました。では、委員の皆様から脳卒中・神経脊椎センターの振り返りに関して、質問やご意見があればお願いいたします。渋谷委員、お願いします。

○渋谷委員

それでは、皮切りに私から質問させていただきます。今のご説明にもありましたけれ

ども、コロナの患者さんを引き受けられたことに加えて、サブアキュートあるいはポストアキュートの入院件数がより増えてきたというのは、本当に地域との連携をずっと積み重ねてこられたご努力の結果ではないかと思えます。多分、この点を今後一つの柱にしていく必要があるだろうなと思うのですが、実際このサブアキュートあるいはポストアキュートの患者さんを受け入れることによって、中の診療体制は大丈夫だったのでしょうかということをお伺いしたいと思うのです。今までそういった患者さんが多くないところに結構たくさん受け入れていらっしゃると思いますので、多分、内科系のお医者さんたちがかなり大変だったのではないかというようなことを思いまして、中の体制は大丈夫だったのかなとちょっと心配になりましてお伺いさせていただきたいと思えます。

○田中委員長

お答えください。

○城倉脳卒中・神経脊椎センター副病院長

脳卒中・神経脊椎センター副病院長の城倉です。当初はサブアキュート等で入院する患者さんは様々な疾患を抱える方が多かったのですが、最近では当院の地域包括ケア病棟の特徴が理解されてきたこともあり、神経疾患の患者さんも増えてきましたので、数は増えましたが、医師のモチベーションも高く保たれていると考えています。

○渋谷委員

ありがとうございます。

○田中委員長

水野委員、お願いします。

○水野委員

個別にお返事いただいたのですが、まだ理解がよくできなかったのでお伺いしたいと思います。21 ページでインシデントの件数が、元年度より2年度のほうが目標が多く、さらに実績がそれ以上に多かったということで、インシデント、アクシデントの系統に関しては、隠蔽するような体質はよくないから目標を多くしたのか、脳卒中もできてから時間がたっていますので、インシデントの件数が多かったということに関しての評価が、目標を上回ったから評価がAだというお返事だったのですが、どうもその辺の理解がよく、納得できませんでした。例えば市民病院は、元年度よりも2年度のほうがインシデントの目標値が減っているのですが、脳卒中のほうは多くしていて、さらに結果が多かったということに関して、評価Aというのは単に数字を上回ったから評価Aなのかどうかということなのですが。

○田中委員長

お答えください。

○齋藤脳卒中・神経脊椎センター病院長

病院長の齋藤です。ご質問ありがとうございます。病院機能評価でもやはりインシデントの報告数は、病院全体の医療安全に対する意識のバロメーターの一つで、積極的にインシデントを報告するような病院の雰囲気づくりを行ってまいりました。その結果、インシデントの件数が多いということはそういう意味では医療安全という意識が病院全

体の中でだいぶ醸成されてきた現れではないかということを考えまして評価させていただきました。以上です。

○田中委員長

水野委員、いかがですか。

○水野委員

すみません、よく聞こえないんです。

○田中委員長

脳卒中の音声が多分、委員の皆様そうだと思いますが安定していない感じがしますね。

○脳卒中・神経脊椎センター職員

すみません、マイクを近づけましたので、聞こえていますでしょうか。

○田中委員長

はい。

○齋藤脳卒中・神経脊椎センター病院長

すみません、繰り返すことになりましたが、医療機能評価で、やはりインシデント報告、特に医師からのインシデント報告が少ないということも指摘されておりますし、そういった意味でインシデント報告に対してしっかり考えていこうという方向性で取り組んでおります。それで、インシデント報告の数というのは、病院全体の医療安全に対する意識の一つのバロメーターということになりますので、そういった意味でしっかりと、些細なことでも起きたことを報告するというような、病院のそういった雰囲気をつくろうということでやっておりますので、インシデントの報告数が高いということは、やはり医療安全の意識が大分醸成されてきた現れではないかということを考えまして、評価をさせていただきました。以上です。

○水野委員

分かりました。

○平原病院経営本部長

病院経営本部長平原でございます。脳卒中のインシデントが増えたというのは、私どもの得られた情報では、放射線部の様々な情報を聞き取る場所では漏れていた部分の聴取ができるようになったという、一つ取組があったと理解しております。それで少し数が、かなりその部分で増えたというのが一つの理由だったと思いますので、新たな取組をしたという形で特段、問題意識を持ちながら取り組んだという理解を病院経営本部としてはしております。以上でございます。

○田中委員長

ほかにいかがでしょうか。黒木委員、どうぞ。

○黒木委員

また2つございまして、新型コロナウイルスに関しては非常にすばらしい取組で黒字達成ということで非常に感銘を受けたのですが、1つ目が、項目でいうと「地域医療全体への貢献」というところで24ページになるかと思えます。こちらの「地域医療・介護人材の育成」のところは全部自己評価できないということで線が引かれていると思いま

すが、市民病院では似たような項目、例えばかなり工夫して行われているのかなというところがございまして、そこを何かもう少し高めていくようなことは何か考えられないのかということでご質問させていただきたいのが1点目です。

もう一点目は「経営力の強化」のところ、今年度は新型コロナウイルスの患者を受け入れられたということで非常に実績も伸びて、恐らく中でかなりいろいろな工夫をされてこのような体制をつくられたのかなと思うのですが、アフターコロナのことを考えたときに同じぐらいの転換を何かしていかないと、こういう黒字の体質というのは維持できないという側面もあるのかなと思います。今回の体制のいろいろな工夫であったりということのパワーをぜひ次の黒字の展開に結びつけていただきたいなと思ひまして、そのあたり、どのようにお考えなのかということをお聞かせいただければと思います。以上2点でございます。

○田中委員長

お答えください。

○齋藤脳卒中・神経脊椎センター病院長

ご質問どうもありがとうございます。地域貢献ということなのですが、コロナの前は市民を対象に年数回、複数回にわたる講演会を行ってまいりました。運動器疾患、脳卒中、あるいはもの忘れ等について積極的に行ってきたわけですが、このようなコロナ禍の中ではそういったことはできないということで、昨年は断念せざるを得ませんでした。その代わりに、例えば救急隊員を対象にしてeラーニングを行ひまして、それを実際に講演内容をしっかり決めて、120人以上の救急隊員の方々にご覧になっていただきました。あと、地域の開業医の先生方との連携ですが、やはりWEBを使った講演会を行ひました。そういった意味で、今回は大分、地域貢献に関しては規模を縮小せざるを得なかったわけですが、コロナが少しでも沈静化すれば再度積極的に様々な形で展開していきたいと考えております。

もう一つ、アフターコロナに関して病院の経営をどのように持っていくかというのはやはり重要な考えでありまして、これは私と各診療科の部長を中心にしてある程度、年間の数値目標を設定して、それを達成するような形で努力していこうというような意識を持たせるということを行っております。具体的には、例えば一日のリハ単位数をしっかりと確保して、問題点があれば毎日そのチェックをしています。どんな問題点があるのか、その辺もしっかり行っております。

あと、もう一つ、今後、高齢者の増加とともに心不全の患者が増えるという、いわゆる心不全パンデミックというようなことが危惧されております。そういったことを踏まえて、新たに循環器内科医の先生を2人お招きしまして、お一人は心臓リハビリテーションの専門医で、リハビリテーションにも診療の設備を準備しました。そのような形で心臓リハ、心不全に対して今後この病院としてしっかり対応していこうということで、リハビリテーションを基盤にして高齢者医療の循環器、脳卒中、そして運動器、この3つの柱をしっかり太くして対応していこうというような形で考えております。

○黒木委員

ありがとうございます。24 ページの地域貢献のところはかなり記載が薄いような気がしますので、もしよろしければ、今おっしゃられたようないろいろな工夫された取組をされていると思うので、記載いただければどうかと思いました。以上でございます。

○齋藤脳卒中・神経脊椎センター病院長

ご指摘どうもありがとうございました。そのようにさせていただきます。

○田中委員長

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

○長野委員

長野です。27 ページの下から3つ目の黒丸なのですが、職員満足度について書かれています。ここに、目標には達していないけれども昨年とほぼ変わらないぐらいだと書かれていますが、PDCAサイクルの観点から、どちらかという低い項目はどういう項目で、それに対してどのような取組をされた結果、昨年と変わらない状況だったのかというのを少し教えていただけると理解しやすいと思います。お願いいたします。

○本間脳卒中・神経脊椎センター管理部長

職員満足度の結果を見ますと、全体としてこの病院で働いていることに満足しているという項目に対しての肯定的な割合が前年度から若干ではありますが0.9ポイントほど増加しているという状況にあります。一方、他部署との交流や学び合いの機会があるという項目であったり、全員が頑張っていて不公平感はないという項目に対する満足感はやがったという状況があります。前者の他部署との交流という項目に関しては、院内の様々な職種で構成されるプロジェクトにおいて、他部署とポスターの作成を通じてメンバー同士の交流を深めるとともに、完成したポスターを院内に掲示するなどの取組を行っております。また、後者の全員が頑張っているということに関しては、例えばコロナでは1チーム3人の週替わりのチーム体制を組んで患者さんに対応したり、あるいは看護体制では1つの部署に偏らないように人員配置を見直すことで業務の平準化を図るといった取組をしております。以上です。

○長野委員

ありがとうございました。昨年と変わらないということで、コロナのこの状況下で昨年と変わらないということなので、それなりに善戦したという受け止めでいいのかなと思ってお聞きしました。

○田中委員長

ありがとうございました。直接昨年の振り返りではないのですが、この脳卒中・神経脊椎センターの建物が建ったのが平成11年と書かれています。私の大学も平成11年建築なので分かりますが、大規模な修繕とか機器の入替えとかだんだん予算が必要になってきています。いかがですか。細かい説明は要りませんが、市役所がちゃんと予算をつけてくれているなら大丈夫でしょうけど。

○齋藤脳卒中・神経脊椎センター病院長

確かに建物の老朽化といいますか、特に配管、電気関係の問題が結構多くなりまして、昨年度はあまり起きなかったのですが、一昨年度はやはり大きな修理が必要であったと

というようなことがあります。そういった意味で、今後その辺の費用がかかってくるかなと思います。医療機器に関してですが、今年度はコロナの補助金もありましたので、CTやモニター等の更新に充てました。そういう意味で少しずつ医療機器に関しては更新を進めているということで、今回こういう状況で、ある意味では病院にとっては非常に助かったというような状況です。以上です。どうもありがとうございました。

○田中委員長

ありがとうございます。機器は確かに入替えたと思いますが、建物の構造部分が30年たってくると、また別の話です。30年ではなく、20年たつと大変なことかもしれません。これは今年の振り返りとは関係ありませんが、ありがとうございました。

ほかによろしければ次に移ります。では、最後にみなと赤十字病院の指定管理者業務実施状況の点検・評価結果について、事務局から説明をお願いします。

○門林病院経営課長

それでは、28ページをご覧ください。一番頭に全体評価として全体の評価項目をまとめております。2段落目の後段ですけれども、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響は大きいものの、点検・評価対象項目は全部で129項目ありますが、この項目について基本協定及び基準書等に基づいて、適切に指定管理業務が実施されていることを確認しています。その下、政策的医療の実施においては、市立病院として新型コロナウイルス感染症に積極的に対応したということと、救急医療においては全国トップクラスの救急車搬送による受入れ患者数を維持しているなどの取組が挙げられます。またその下、指定管理者独自の取組としては、令和2年9月にJMIPの認証を取得していること、またその下の行では、令和2年12月に横浜市から中区、西区の2区の認知症疾患医療センターの業務委託を受け実施していることが挙げられます。またその下、地域医療全体の質の向上に向けた取組では、2行目ですが、地域医療機関との連携をより強化し、紹介率・逆紹介率の向上に努めたこと、新たな取組として、オンラインでの医療機関、営業地域医療機関向けの研修を開催し、コロナ禍における地域医療の充実に向けた取組を進めていること。その下の段落ですが、経営面においては、新型コロナウイルス感染症患者の積極的な受入れ、あるいはコロナ患者の受入れのために病床確保を行ったことによる、神奈川県新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金の受領などによりまして、令和2年度の経常収支は25.3億円の黒字となっていること、ということで全体の評価としてまとめております。

29ページをご覧ください。ここからは項目別の評価となっております。(1)診療に関する取組、(2)検診に関する取組、こちらは両方とも適正に規定どおり実施していることを確認いたしました。

30ページをご覧ください。ここからは政策的医療に関する取組となっております。主な取組状況では、24時間365日の救急医療から始まりまして、その次の31ページ、災害時医療の項目まで取組をまとめております。最後の31ページですが、評価の欄に書いておりますけれども、新型コロナウイルス感染症患者の受入れに積極的に対応したことと、それに併せて、緩和ケア医療については、新型コロナウイルス感染症への対応に伴いま

して、緩和ケア病床を休床していると。一般病棟においてその分、緩和ケア医療が行われているということを確認しております、規定どおり実施していることは認めますということに記載しております。

32 ページ、ここからは地域医療全体の質の向上に向けた役割に関する取組として、主な取組をまとめております。また、利用料金に関する取組以降 33 ページまで、各項目にわたって規定どおり実施していることを確認しております。

34 ページをご覧ください。ここでは、全体評価に対しての委員からの主な意見をまとめております。主な意見ですが、2つ目の黒丸では、経常収支の黒字、大幅増加おめでとうございますというご意見を頂いております。また、その後段では、2021 年度も昨年度と同様に補助金が支給されるかどうかは不明で、その場合のシナリオも準備も欠かせないというご意見を頂いております。そこから3つ下に行っていただいで最後ですけれども、点検・評価対象項目は全部で 129 項目ありますけれども、その全てにおいて丸がついたのはすばらしいというご意見を頂いております。

35 ページに移りまして、項目別評価の中でもご意見を頂いております。1つ目の黒丸では、新型コロナウイルス感染症患者の積極的な受入れを行いながら、全国トップクラスの救急車搬送による受入患者数を維持できていることは高く評価するというご意見。2つ下ですが、外国人患者受入医療機関認証へ向けた取組や、認知症疾患医療センター業務委託を受けるなど、積極的な地域医療全体への貢献が高く評価できるというご意見。そして、下から2つ目ですが、がんセンターに関しては、新型コロナウイルス感染症対応のため、緩和ケア病棟を閉鎖し、緩和ケア外来、一般病床での緩和ケアの充実を工夫しているというようなご意見を頂いております。

36 ページ、37 ページ以降につきましては、それぞれの項目についてのバックデータとなっておりますので、後ほどご覧いただければと思います。説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

○田中委員長

説明ありがとうございました。では、みなと赤十字病院に関して質問・ご意見があればお願いいたします。

○渋谷委員

また渋谷からでよろしいでしょうか。まず、これまで、毎年そうなのですが、みなと赤十字病院につきましては本当に救急応需率が高くて、今回も不応需が2%というのは本当に応需率が高い数値でありまして、非常に高い意志を持っていらっしゃるということも評価させていただきたいと思っております。

コロナに関して2点質問があるのですが、1つはまず、緩和ケア病棟を閉鎖してというご説明がありました。これは、緩和ケア病棟をコロナ病棟に変換したということなのか、あるいは看護師などの医療従事者の配置の問題でそのようになったのか、その点を1つお伺いしたいと思っております。

それからもう一つは、先ほど看護師の方のメンタルケアのことについてご説明いただきましたけれども、実はコロナ病棟の看護師さんにつきまして、北里なんかも中等症の

患者さんを引き受けている病棟を持っているのですが、そこでずっとうちの看護部長が悩んでおりますのは、コロナ禍が始まって1年半になりますけれども、ずっと固定した看護師を一応今そこに配置しています。固定することによって感染症に対するスキルの向上という点では非常に安定はしているのですが、ただ、そこにいる看護師さんがずっと長いこと緊張を強いられている状況にあるということで、看護師を少し入れ替えたほうがいいのか、あるいはこのままもう少し頑張ったほうがいいのかということをおうちの看護部長が悩んでいたものですから、みなと赤十字病院さんではどのようにされているのかということをお伺いしたいと思って、その2点を教えてください。よろしく申し上げます。

○田中委員長

お答えください。

○伊藤みなと赤十字病院長

病院長の伊藤です。ご質問ありがとうございます。まず、緩和ケアについては、初めにダイヤモンド・プリンセス号が来たときは、緩和ケア病棟をコロナ病床に変えました。その後一度、緩和ケア病床を開きまして、しかしながらどうしてもナースが足りない。マンパワーを集中させるためにやむなく現在休止していると、そういう状況でございます。緩和ケアにつきましては、緩和ケア医療チームが活躍してまして、外科病棟を中心にしっかり緩和ケアは行っているのですが、がん拠点病院としては緩和ケアなしではすみませんので、またどう再開するかというのを、状況を考えながら進めていきたいと考えております。

○間瀬みなと赤十字病院長補佐

看護部長の間瀬です。メンタルケアにつきましては、昨年度非常に大変だったときに心のケア部門を開設いたしました。それは、災害派遣で心のケアをする際に、そのような研修を受けた師長が複数名おりますので、その人たちが中心になって部門を開きました。第3波でその後落ち着きましたので、こちらのほうは昨年度で今閉鎖しております。

もう一つの件に関しては、リリース体制で互いに補い合っていくということを今年は強化しております。まず、長期的なリリースをどうしていくかということと、毎日の短期的なリリースをどのように業務調整するか、その2点があります。長期的な件に関しては、ICUの経験者が各部署に配置されるように異動をあらかじめしておいて、今回のようなときに各部署から異動できるようにしております。短期的なことに関しては、例えばコロナの患者さんが少ないときには、各一般病床にお手伝いに行ってもらって、今のように忙しいときには、逆にあのおときにお手伝いしてもらったのだから手伝いに行くという形で、お互いに補えるようにしております。その2点です。

○伊藤みなと赤十字病院長

よろしいでしょうか。

○田中委員長

では、ほかに質問・ご意見があればお願いします。黒木委員、どうぞ。

○黒木委員

ありがとうございます。非常に応需率等も高くて素晴らしいなと思います。それで、私から2つございまして、1つは、新型コロナウイルス、医療安全について非常に取組をされたということで、こちらは28ページに記載があるのですが、これはどういう取組をされたかということについて、何かWEBサイト等でより詳しく発信されているのかどうか。ここまで受け入れられているということでかなり様々な工夫をされていると思うのですが、その工夫の点をPRいただければ、ほかの病院であったりとか、地域にも役立つのかなと思ったのが1つでございます。

もう一つが、同じページのところで、これはみなと赤十字さんだけではないと思いますが、25.3億円の黒字が出たということで非常にうれしいことである一方で、一般市民としてはこれを一体今後どのように使っていくであるとか、どのように還元していくのかということが一つあるのかなということを考えております。もちろんプレゼンスを高めるといふこともあるのかなというふうに思います。例えば職員の方に少し、還元するというのは難しいと思いますが、環境を良くするとか、そのような方針を一言でも記載しておくといいのかなと思ったので、もし何かございましたらご教示いただければと思います。以上でございます。

○伊藤みなと赤十字病院長

ありがとうございます。医療安全等についての広報をもっとしっかりやったほうが良いということはあると思います。もう少しアピールを、うちはちょっとアピールが弱いかなという気が私自身はしていますので、今後しっかり検討していきたいと思っております。

それから、黒字額、これは特にうちが何か特別なことをしたわけではないのですが、粛々と補助金の申請を県とも相談しながら重ねていった結果が大変多くの額を頂けて、これは本当にありがたいと思っております。まず、職員に対しては、昨年の夏のボーナスは本当に少なくあまり出せませんでしたので、職員から大分不満が出たのですが、その分、今年はかなり上乘せができましたので、おかげさまで職員にも還元できていると考えております。この黒字については職員にも還元する、それから、25億円といいますが、これは実はこの病院ができてから累積赤字をやっと解消できるぐらいの額ですが、やはり設備投資を中心に病院機能を充実して、職員のモチベーションもこれで上がってきておりますので、しっかり市民のため、国民のために職員一同頑張っていきたいと思っております。

○黒木委員

ありがとうございます。職員のモチベーションの向上と医療機能の充実のためということで、よく分かりました。何か金額だけ載っているとそこだけ独り歩きしそうな気がしましたので、ちょっとコメントさせていただきました。

○伊藤みなと赤十字病院長

ありがとうございます。

○平原病院経営本部長

病院経営本部長の平原でございますが、伊藤院長自らは言いにくそうなので私から一

言付け足させていただきますと、今コロナのワクチン接種が行われております。コロナのワクチンの中でアナフィラキシーというのが随分大きな問題になっていると思いますが、アレルギーの基幹病院でございますみなと赤十字は、アレルギーセンター長を初めとしてワクチンに関するアレルギー、アナフィラキシーのときの対応、様々な手順書みたいなものを横浜市と一緒に作成してもらいました。これは3月中に一生懸命やっていたのですが、最終的に出来上がったのが4月ですので来年度の事業結果の中に入るのですが、大変な貢献をしていただいたので、それだけはちょっと補足させていただきます。以上でございます。

○田中委員長

ありがとうございました。ダイヤモンド・プリンセス号に関する事案については、何かレポートとかお作りになったのですか。内部ではなくて、表に出すものはおありなのでしょうか。

○伊藤みなと赤十字病院長

そういう広報は赤十字全体で行っておりまして、赤十字全体が全国放送の商業みみたいなもので赤十字はここまでやっていると、我々みなと赤十字の活動が一部載っていたり、等々で広報をしっかりとやっています。

○田中委員長

では、赤十字のホームページで確かめてみます。ありがとうございました。

○伊藤みなと赤十字病院長

ありがとうございます。

○田中委員長

ほかにいかがでしょうか。特にございませぬか。皆さん、既に提出されたご意見に細かくいろいろな点を指摘していただいている、多分、医療局病院経営本部としても助かったと思います。では、議論はここまでといたします。

なお、冒頭に事務局からの説明がありましたが、本日の委員会でのご意見を踏まえて最終的な評価結果にいたします。評価結果については、最後は委員長の私にご一任していただく案でよろしゅうございますか。

(異議なし)

○田中委員長

ありがとうございます。では、そのようにいたします。

(3) その他

○田中委員長

では、事務局から連絡事項について説明してください。

○石川係長

事務局より1点ご連絡があります。議事録の公開についてお願いがございます。本日

	<p>の議事内容につきまして、後日議事録としてまとめ、委員の皆様にご確認いただいた上で、1か月後を目途に公表したいと考えております。よろしくお願いいたします。事務局からは以上でございます。</p> <p>閉 会</p> <p>○田中委員長</p> <p>ありがとうございます。本日本日予定していた議題は以上でございます。昨年1年間、3つの病院、そして経営本部の皆さん、本当に大変な中で立派な業績を上げられ、かつ、市民に貢献されている様子に委員一同敬意を表します。</p> <p>これを持ちまして第19回横浜市立病院経営評価委員会を閉会とします。ご議論ありがとうございました。</p>
<p>資料・ 特記事項</p>	<p>I 会議資料</p> <p>○ 【議事（1）資料】「横浜市立病院中期経営プラン 2019－2022」令和2年度の振り返りと点検・評価 横浜市立みなと赤十字病院の指定管理業務実施状況についての振り返り</p> <p>II 特記事項</p> <p>・会議録は公開し、資料とあわせ閲覧に供し、ホームページに掲載します。</p>